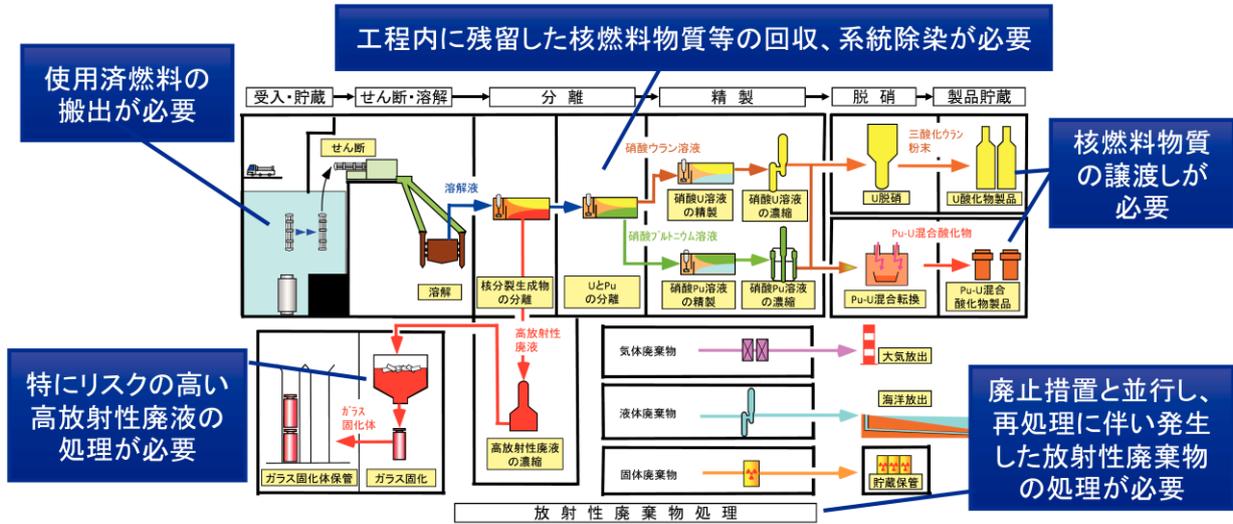




### 3 再処理施設の廃止措置の特徴

再処理施設の廃止措置は国内初の取組みであり、原子力発電所の廃止措置を参考にしつつ、海外の先行施設との国際協力にも取り組んでいる。



上記の他、

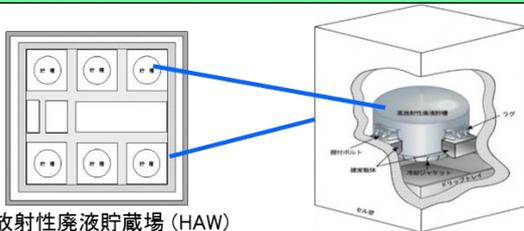
- ・約30の管理区域を有する施設に対して順次廃止措置を進めることが必要
- ・施設の高経年化対策が必要
- ・新規基準を踏まえた安全性向上対策が必要
- ・機器解体後のスペースを活用し、解体廃棄物の保管が必要

### 4 施設のリスク低減に向けた最優先課題

当面は、リスクを速やかに低減させるため、4つの取組みを最優先で進めている。

- ◆ 高放射性廃液を貯蔵  
⇒ 崩壊熱除去機能喪失時に沸騰が生じるリスク⇒ 貯蔵の安全性向上、早期のガラス固化
- ◆ 高放射性固体廃棄物を取り出できない状態でプール内(ハル缶等)やセル内(可燃性容器)に貯蔵  
⇒ プール水の漏えい、火災等のリスク⇒ 廃棄物の取出し/再貯蔵
- ◆ 大量の低放射性廃液を貯蔵  
⇒ 漏えいのリスク⇒ 早期のセメント固化

#### 高放射性廃液貯蔵の安全性向上



高放射性廃液貯蔵場 (HAW)

#### 高放射性廃液のガラス固化

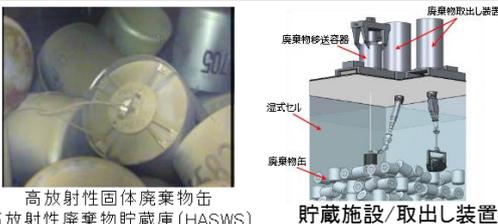


ガラス固化技術開発施設 (TVF)



溶融ガラス流下

#### 高放射性固体廃棄物の取出し/再貯蔵



高放射性固体廃棄物缶  
高放射性廃棄物貯蔵庫 (HASWS)

貯蔵施設/取出し装置

#### 低放射性廃液のセメント固化



低放射性廃棄物処理技術開発施設 (LWTF)



蒸発缶



核種分離工程